



ボリューム API メソッド Element Software

NetApp
April 17, 2024

目次

ボリューム API メソッド	1
詳細については、こちらをご覧ください	2
CancelClone	2
CancelGroupClone	3
CloneMultipleVolumes	4
CloneVolume	8
CopyVolume (コピーボリューム)	13
QoSPolicy を作成します	15
CreateVolume を使用します	17
CreateBackupTarget をクリックします	24
DeleteQoSPolicy のように入力します	25
DeleteVolume	26
DeleteVolumes	29
GetBackupTarget	31
GetVolumeStats	33
GetDefaultQoS の設定	36
GetQoSPolicy を参照してください	37
GetVolumeCount の値	39
GetVolumeEfficiency を使用します	40
ListActiveVolumes の場合	42
ListBackupTargets を参照します	44
ListBulkVolumeJobs	45
ListDeletedVolumes の場合	47
ListQoSPolicies の順にクリックします	50
ListSyncJobs	52
ListVolumeQoSHistograms	54
ListVolumes の場合	56
ListVolumeStats の値	60
ListVolumesForAccount を実行します	62
ListVolumeStatsByAccount	65
ListVolumeStatsByVirtualVolume	67
ListVolumeStatsByVolume を参照してください	69
ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup	71
ModifyBackupTarget	73
ModifyQoSPolicy のように変更します	74
ModifyVolume の追加	76
ModifyVolumes の場合に使用でき	84
PurgeDeletedVolume のこと	93
PurgeDeletedVolumes の場合	94
RemoveBackupTarget	96

RestoreDeletedVolume	97
SetDefaultQoS の設定	98
StartBulkVolumeRead	100
StartBulkVolumeWrite	103
UpdateBulkVolumeStatus	106

ボリューム API メソッド

Element ソフトウェアボリューム API メソッドを使用すると、ストレージノードにあるボリュームを管理できます。これらのメソッドを使用して、ボリュームを作成、変更、クローニング、および削除できます。また、ボリュームのデータ測定値を収集して表示することもできます。

- [CancelClone](#)
- [CancelGroupClone](#)
- [CloneMultipleVolumes](#)
- [CloneVolume](#)
- [CopyVolume](#) (コピーボリューム)
- [QoSPolicy](#) を作成します
- [CreateVolume](#) を使用します
- [CreateBackupTarget](#) をクリックします
- [DeleteQoSPolicy](#) のように入力します
- [DeleteVolume](#)
- [DeleteVolumes](#)
- [GetBackupTarget](#)
- [GetVolumeStats](#)
- [GetDefaultQoS](#) の設定
- [GetQoSPolicy](#) を参照してください
- [GetVolumeCount](#) の値
- [GetVolumeEfficiency](#) を使用します
- [ListActiveVolumes](#) の場合
- [ListBackupTargets](#) を参照します
- [ListBulkVolumeJobs](#)
- [ListDeletedVolumes](#) の場合
- [ListQoSPolicies](#) の順にクリックします
- [ListSyncJobs](#)
- [ListVolumeQoSHistograms](#)
- [ListVolumes](#) の場合
- [ListVolumeStats](#) の値
- [ListVolumesForAccount](#) を実行します
- [ListVolumeStatsByAccount](#)
- [ListVolumeStatsByVirtualVolume](#)
- [ListVolumeStatsByVolume](#) を参照してください

- [ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup](#)
- [ModifyBackupTarget](#)
- [ModifyQoSPolicy](#) のように変更します
- [ModifyVolume](#) の追加
- [ModifyVolumes](#) の場合に使用でき
- [PurgeDeletedVolume](#) のこと
- [PurgeDeletedVolumes](#) の場合
- [RemoveBackupTarget](#)
- [RestoreDeletedVolume](#)
- [SetDefaultQoS](#) の設定
- [StartBulkVolumeRead](#)
- [StartBulkVolumeWrite](#)
- [UpdateBulkVolumeStatus](#)

詳細については、こちらをご覧ください

- ["SolidFire および Element ソフトウェアのドキュメント"](#)
- ["以前のバージョンの NetApp SolidFire 製品および Element 製品に関するドキュメント"](#)

CancelClone

CancelClone メソッドを使用すると、実行中のボリューム・クローンまたはボリューム・コピー・プロセスを停止できますグループクローン処理をキャンセルすると、処理に関連付けられた `asyncHandle` が完了して削除されます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
クローン ID	進行中のクローンプロセスのクローン ID。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CancelClone",
  "params": {
    "cloneID" : 5,
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

CancelGroupClone

CancelGroupClone メソッドを使用すると、ボリュームのグループで実行中のクローンプロセスを停止できます。グループクローン処理をキャンセルすると、処理に関連付けられた `asyncHandle` が完了して削除されます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
groupCloneID	進行中のクローンプロセスのクローンID。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CancelGroupClone",
  "params": {
    "cloneID" : 5,
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

CloneMultipleVolumes

「CloneMultipleVolumes」メソッドを使用すると、指定したボリュームのグループのクローンを作成できます。複数のボリュームのクローンを一緒に作成する場合、一連の同じ特性を割り当てることができます。

groupSnapshotID パラメータを使用してグループ Snapshot 内にボリュームのクローンを作成する前に、を使用してグループ Snapshot を作成する必要があります [CreateGroupSnapshot を作成します](#) API メソッドまたは Web UI。groupSnapshotID の使用は、複数のボリュームのクローンを作成する場合のオプションです。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
にアクセスします	ボリュームの配列に渡した情報で上書きされない場合の、新しいボリューム用のデフォルトのアクセス方法。	文字列	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
enableSnapMirrorReplication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ 	ブール値	いいえ	いいえ
groupSnapshotID	クローンのベースとして使用するグループ Snapshot の ID。	整数	なし	いいえ
newAccountID	ボリュームの配列に渡した情報で上書きされない場合の、ボリュームの新しいアカウント ID。	整数	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
個のボリューム	<p>新しいボリュームに指定する一連のメンバー。メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> • volumeID : (必須) • access : (オプション) readOnly、readWrite、locked、replicationTarget のいずれか。 • attributes : (オプション) JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。 • name : (オプション) クローンの新しい名前。 • newAccountID : (オプション) 新しいボリュームのアカウント ID。 • newSize : (オプション) ボリュームの合計サイズ (バイト)。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。 <p>オプションのメンバーを指定しない場合、値はソースボリュームから継承されます。</p>	JSON オブジェクトの配列	なし	○ (volumeID)

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
asyncHandle	非同期メソッドの呼び出しで返された値。	整数
groupCloneID	新しいグループクローンの一意的 ID。	整数
メンバー	ソースとデスティネーションのボリュームペアのボリューム ID のリスト。	JSON オブジェクトの配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CloneMultipleVolumes",
  "params": {
    "volumes": [
      {
        "volumeID": 5
        "name": "foxhill",
        "access": "readOnly"
      },
      {
        "volumeID": 18
      },
      {
        "volumeID": 20
      }
    ]
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "asyncHandle": 12,
    "groupCloneID": 4,
    "members": [
      {
        "srcVolumeID": 5,
        "volumeID": 29
      },
      {
        "srcVolumeID": 18,
        "volumeID": 30
      },
      {
        "srcVolumeID": 20,
        "volumeID": 31
      }
    ]
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

CloneVolume

「CloneVolume」メソッドを使用して、ボリュームのコピーを作成できます。このメソッドは非同期であり、また完了までの時間はさまざまです。

クローン作成プロセスは 'CloneVolume' 要求を行うとすぐに開始され 'API メソッドが発行されたときのボリュームの状態を表しますを使用できます [GetAsyncResult](#) クローニングプロセスがいつ完了し、新しいボリュームが接続可能かを確認する方法。を使用できます [ListSyncJobs](#) をクリックして、クローン作成の進捗状況を確認します。ボリュームの初期属性と QoS 設定は、クローンの作成元のボリュームから継承されます。これらの設定は変更できます [ModifyVolume の追加](#)。



クローンボリュームには、ソースボリュームのボリュームアクセスグループメンバーシップは継承されません。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
にアクセスします	<p>新しいボリュームに許可するアクセス。値を指定しない場合、アクセス値は変更されません。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>readOnly:</code> (オプション) 読み取り操作のみが許可されます • <code>ReadWrite:</code> (オプション) 読み取りと書き込みが可能です。 • <code>'locked]</code> : (任意) 読み取りも書き込みもできません。指定しない場合、クローニングするボリュームのアクセス値が使用されます。 • <code>ReplicationTarget:</code> (オプション) ペアリングされたボリュームセットのターゲットボリュームとしてボリュームを指定しますボリュームがペアリングされていない場合、アクセスステータスは <code>locked</code> になります。 	文字列	なし	いいえ
属性 (Attributes)	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
enable512e	新しいボリュームで 512 バイトのセクターエミュレーションを使用するかどうかを指定します。指定しない場合、クローニングするボリュームの設定が使用されます。	ブール値	元のボリュームの設定	いいえ
enableSnapMirrorReplication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ 	ブール値	いいえ	いいえ
名前	新しいクローンボリュームの名前。1~64 文字で指定する必要があります。	文字列	なし	はい。
newAccountID	新しいボリュームの所有者のアカウント ID。指定しない場合、クローニングするボリュームの所有者のアカウント ID が使用されます。	整数	元のボリュームの所有者のアカウント ID	いいえ
newSize	ボリュームの新しいサイズ（バイト）。クローニングするボリュームのサイズより大きくすることも小さくすることもできます。指定しない場合、ボリュームサイズは変更されません。サイズは最も近い 1MB 単位のサイズに切り上げられます。	整数	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
Snapshot ID	クローンのソースとして使用される Snapshot の ID 。 ID を指定しない場合は、現在のアクティブボリュームが使用されます。	整数	なし	いいえ
ボリューム ID	クローニングするボリュームの ID 。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
asyncHandle	処理結果の取得に使用されるハンドル値。	整数
クローン ID	新しいクローンボリュームのクローン ID 。	整数
カーブ（ Curve ）	クローンに適用された QoS curve 値。	JSON オブジェクト
ボリューム	新しいクローンボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム
ボリューム ID	新しいクローンボリュームの ID 。	整数

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CloneVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 5,
    "name" : "mysqldata-snapshot1",
    "access" : "readOnly"
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "asyncHandle": 42,
    "cloneID": 37,
    "volume": {
      "access": "readOnly",
      "accountID": 1,
      "attributes": {},
      "blockSize": 4096,
      "createTime": "2016-03-31T22:26:03Z",
      "deleteTime": "",
      "enable512e": true,
      "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jyay.mysqldata-snapshot1.680",
      "name": "mysqldata-snapshot1",
      "purgeTime": "",
      "qos": {
        "burstIOPS": 100,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
          "4096": 100,
          "8192": 160,
          "16384": 270,
          "32768": 500,
          "65536": 1000,
          "131072": 1950,
          "262144": 3900,
          "524288": 7600,
          "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 100,
        "minIOPS": 50
      },
      "scsiEUIDeviceID": "6a7961790000002a8f47acc0100000000",
      "scsiNAADeviceID": "6f47acc10000000006a7961790000002a8",
      "sliceCount": 0,
      "status": "init",
      "totalSize": 1000341504,
      "virtualVolumeID": null,
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumeID": 680,
      "volumePairs": []
    }
  }
}
```

```
    },  
    "volumeID": 680  
  }  
}
```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

- [GetAsyncResult](#)
- [ListSyncJobs](#)
- [ModifyVolume](#) の追加

CopyVolume（コピーボリューム）

「CopyVolume」メソッドを使用すると、既存のボリュームのデータコンテンツを別のボリューム（またはスナップショット）のデータコンテンツで上書きできます。IQN、QoS 設定、サイズ、アカウント、ボリュームアクセスグループのメンバーシップなどの、デスティネーションボリュームの属性は変更されません。デスティネーションボリュームは、すでに存在している必要があり、ソースボリュームと同じサイズである必要があります。

この処理を開始する前にクライアントでデスティネーションボリュームをアンマウントすることを推奨します。処理中にデスティネーションボリュームが変更された場合、変更は失われます。この処理が完了するまでの時間は状況によって異なります。を使用できます [GetAsyncResult](#) プロセスがいつ完了したかを判断する方法、および [ListSyncJobs](#) をクリックしてコピーの進捗状況を確認してください。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
dstVolumeID	上書きするボリュームの ID。	整数	なし	はい。
ボリューム ID	データを読み取るボリュームの ID。	整数	なし	はい。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
Snapshot ID	クローンのソースとして使用される Snapshot の ID 。 ID を指定しない場合は、現在のアクティブボリュームが使用されます。	整数	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
asyncHandle	処理結果の取得に使用されるハンドル値。	整数
クローン ID	新しいクローンボリュームのクローン ID 。	整数

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CopyVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 3,
    "dstVolumeID" : 2
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "asyncHandle": 9,
    "cloneID": 5
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

- [GetAsyncResult](#)
- [ListSyncJobs](#)

QoSPolicy を作成します

'CreateQoSPolicy メソッドを使用して QoSPolicy オブジェクトを作成し、作成時または変更時にボリュームにあとで適用することができます。QoS ポリシーには、一意の ID、名前、および QoS 設定があります。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
名前	QoS ポリシーの名前。 gold、platinum、silver などです。	文字列	なし	はい。
QoS	このポリシーが表す QoS 設定。	QoS	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
QoSPolicy のように表示	新たに作成された QoSPolicy オブジェクト。	QoSPolicy のように表示

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 68,
  "method": "CreateQoSPolicy",
  "params": {
    "name": "bronze",
    "qos": {
      "minIOPS": 50,
      "maxIOPS": 15000,
      "burstIOPS": 15000
    }
  }
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 68,
  "result": {
    "qosPolicy": {
      "name": "bronze",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15000,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
          "4096": 100,
          "8192": 160,
          "16384": 270,
          "32768": 500,
          "65536": 1000,
          "131072": 1950,
          "262144": 3900,
          "524288": 7600,
          "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15000,
        "minIOPS": 50
      },
      "qosPolicyID": 2,
      "volumeIDs": []
    }
  }
}
```

新規導入バージョン

10.0

CreateVolume を使用します

CreateVolume メソッドを使用すると、クラスタ上に新しい空のボリュームを作成できます。ボリュームが作成されるとすぐに、そのボリュームを iSCSI 経由で接続できます。

QoS 値を指定せずに作成したボリュームには、デフォルト値が使用されます。GetDefaultQoS メソッドを使用すると、ボリュームのデフォルト値を表示できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
「access」をクリックします	ボリュームのアクセスモード。このパラメータを指定した場合、サポートされる値は「SnapMirrorTarget」のみです。	文字列	なし	いいえ
「accountID」	このボリュームを所有するアカウントのID。	整数	なし	はい。
「associateWithQoSPolicy」と入力します	<p>指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : QoSPolicy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。 • false : QoSPolicy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けないでください。false の場合、QoSPolicy パラメータで QoS ポリシーを指定したかどうかに関係なく、既存のポリシーの関連付けが削除されます。 	ブール値	正しいです	いいえ
「attributes」	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。属性の合計サイズは、JSON 形式の文字を含めて、1000 B 未満または 1KB 未満にする必要があります。	JSON オブジェクト	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
enable512e	<p>512 バイトのセクターエミュレーションを有効にします。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「真」：ボリュームは 512 バイトのセクターエミュレーションを提供します。 ・ false`： 512e エミュレーションは有効になっていません。 	ブール値	なし	はい。
「enableSnapMirrorReplication」と入力します	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「真」 ・「偽」 	ブール値	いいえ	いいえ
「50 サイズ」	<p>ボリュームでサポートされる FIFO（First-In First-Out）スナップショットの最大数を指定します。FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットはどちらも、ボリューム上で使用可能なスナップショットスロットの同じプールを使用することに注意してください。このオプションを使用して、使用可能なスナップショットスロットの FIFO スナップショットの消費を制限します。省略した場合、デフォルト値は 24 です。</p>	整数	24	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
「inFifoSize」のよう に表示されます	ボリュームによって 予約された FIFO（ First-In First-Out） スナップショットス ロットの最小数を指 定します。これによ り、FIFO 以外のス ナップショットが意 図せずに FIFO スロ ットを過剰に消費し ないボリュームで FIFO スナップショ ットと非 FIFO スナ ップショットの両方 を使用する場合に、 保証されます。ま た、少なくともこの 多くの FIFO スナッ プショットが常に利 用可能であることを 保証します。FIFO と非 FIFO のスナッ プショットは同じプ ールを共有するた め、「minFifoSize 」は、可能な非 FIFO スナップショ ットの合計数を同じ 量だけ減らします。 省略した場合、デフ ォルト値は 0 です。	整数	0	いいえ
「name」	ボリュームアクセス グループの名前（ユ ーザが指定可能）。 固有である必要はあ りませんが、一意に することを推奨しま す 1~64 文字で指定 します。	文字列	なし	はい。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
「 qos 」 と入力します	このボリュームの初期 QoS 設定。指定しない場合はデフォルト値が使用されます。有効な値は次のとおり <ul style="list-style-type: none"> 「 IOPS 」 「最大軸 IOPS 」 「 burstIOPS 」 	QoS オブジェクト	なし	いいえ
「 qosPolicyID 」	指定したボリュームに適用する QoS 設定が定義されたポリシーの ID。このパラメータは 'qos' パラメータと同時に指定することはできません	整数	なし	いいえ
合計サイズ	ボリュームの合計サイズ（バイト）。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム	作成されたボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム
ボリューム ID	作成されたボリュームの ID。	整数
カーブ（ Curve ）	curve は一連のキーと値のペアです。キーはバイト単位の I/O サイズです。値は、特定の I/O サイズで IOP を実行する際のコストを表します。curve は、100 IOPS の 4、096 バイトの処理セットと比較して計算されます。	JSON オブジェクト

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CreateVolume",
  "params": {
    "name": "mysqldata",
    "accountID": 1,
    "totalSize": 107374182400,
    "enable512e": false,
    "attributes": {
      "name1": "value1",
      "name2": "value2",
      "name3": "value3"
    },
    "qos": {
      "minIOPS": 50,
      "maxIOPS": 500,
      "burstIOPS": 1500,
      "burstTime": 60
    }
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "curve": {
      "4096": 100,
      "8192": 160,
      "16384": 270,
      "32768": 500,
      "65536": 1000,
      "131072": 1950,
      "262144": 3900,
      "524288": 7600,
      "1048576": 15000
    },
    "volume": {
```

```

    "access": "readWrite",
    "accountID": 1,
    "attributes": {
        "name1": "value1",
        "name2": "value2",
        "name3": "value3"
    },
    "blockSize": 4096,
    "createTime": "2016-03-31T22:20:22Z",
    "deleteTime": "",
    "enable512e": false,
    "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:mysqldata.677",
    "name": "mysqldata",
    "purgeTime": "",
    "qos": {
        "burstIOPS": 1500,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 500,
        "minIOPS": 50
    },
    "scsiEUIDeviceID": "6a7961790000002a5f47acc0100000000",
    "scsiNAADeviceID": "6f47acc10000000006a7961790000002a5",
    "sliceCount": 0,
    "status": "active",
    "totalSize": 107374182400,
    "virtualVolumeID": null,
    "volumeAccessGroups": [],
    "volumeID": 677,
    "volumePairs": []
},
"volumeID": 677
}

```

詳細については、こちらをご覧ください

[GetDefaultQoS の設定](#)

CreateBackupTarget をクリックします

「CreateBackupTarget」を使用すると、バックアップターゲット情報を作成および保存できるため、バックアップを作成するたびに再入力する必要がなくなります。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
名前	バックアップターゲットの名前。	文字列	なし	はい。
属性（Attributes）	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト	なし	○（ただし空にすることも可能）

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
backupTargetID	新しいバックアップターゲットに割り当てられた一意の識別子。	整数

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CreateBackupTarget",
  "params": {
    "name": "mytargetbackup"
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "backupTargetID": 1
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

DeleteQoSPolicy のように入力します

「QoS ポリシー」メソッドを使用すると、システムから QoS ポリシーを削除できます。このポリシーで作成または変更したすべてのボリュームの QoS 設定には影響はありません。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
qosPolicyID	削除する QoS ポリシーの ID。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 663,
  "method": "DeleteQoSPolicy",
  "params": {
    "qosPolicyID": 4
  }
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 663,
  "result": {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

DeleteVolume

「ボリュームの削除」メソッドを使用すると、アクティブなボリュームを削除対象としてマークできます。マークされたボリュームは、クリーンアップ間隔の経過後にパージされます（完全に削除されます）。

ボリュームの削除を要求すると、ボリュームへのアクティブな iSCSI 接続はただちに終了します。ボリュームがこの状態になっている間、接続は許可されません。マークされたボリュームは、ターゲットの検出要求では返されません。

削除対象としてマークされたボリュームの Snapshot は影響を受けません。Snapshot は、ボリュームがシステムからパージされるまで保持されます。削除対象としてマークされたボリュームで、ボリュームの一括読み取り / 書き込み処理が実行中の場合、その処理は停止します。

削除するボリュームが別のボリュームとペアになっている場合、ペアボリューム間のレプリケーションは中断されます。削除状態の間、そのボリュームのデータは転送されません。削除されたボリュームとペアになっていたリモートボリュームは PausedMisconfigured 状態になり、削除されたボリュームとの間ではデータは送受信されません。削除されたボリュームがパージされるまでは、ボリュームをリストアしてデータ転送を再開できます。削除されたボリュームがシステムからパージされると、ペアになっていたボリュームは StoppedMisconfigured 状態になり、ボリュームペアリングのステータスが削除されます。パージされたボリュームは完全に使用できなくなります。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	削除するボリュームの ID。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム	削除されたボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム
ボリューム ID	削除されたボリュームの ID。	整数
カーブ（Curve）	curve は一連のキーと値のペアです。キーはバイト単位の I/O サイズです。値は、特定の I/O サイズで IOP を実行する際のコストを表します。curve は、100 IOPS の 4、096 バイトの処理セットと比較して計算されます。	JSON オブジェクト

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "DeleteVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 5
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
```

```

"result": {
  "volume": {
    "access": "readWrite",
    "accountID": 1,
    "attributes": {
      "name1": "value1",
      "name2": "value2",
      "name3": "value3"
    },
    "blockSize": 4096,
    "createTime": "2016-03-28T16:16:13Z",
    "deleteTime": "2016-03-31T22:59:42Z",
    "enable512e": true,
    "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jyay.1459181777648.5",
    "name": "1459181777648",
    "purgeTime": "2016-04-01T06:59:42Z",
    "qos": {
      "burstIOPS": 150,
      "burstTime": 60,
      "curve": {
        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
      },
      "maxIOPS": 100,
      "minIOPS": 60
    },
    "scsiEUIDeviceID": "6a796179000000005f47acc0100000000",
    "scsiNAADeviceID": "6f47acc10000000006a796179000000005",
    "sliceCount": 1,
    "status": "deleted",
    "totalSize": 1000341504,
    "virtualVolumeID": null,
    "volumeAccessGroups": [
      1
    ],
    "volumeID": 5,
    "volumePairs": []
  }
}

```

```
}
```

新規導入バージョン

9.6

DeleteVolumes

「ボリューム」メソッドを使用すると、複数（最大 500 個）のアクティブなボリュームを削除対象としてマークできます。マークされたボリュームは、クリーンアップ間隔の経過後にパージされます（完全に削除されます）。

ボリュームの削除を要求すると、ボリュームへのアクティブな iSCSI 接続はただちに終了します。ボリュームが削除対象としてマークされている間、接続は許可されません。マークされたボリュームは、ターゲットの検出要求では返されません。

削除対象としてマークされたボリュームの Snapshot は影響を受けません。Snapshot は、ボリュームがシステムからパージされるまで保持されます。削除対象としてマークされたボリュームで、ボリュームの一括読み取り / 書き込み処理が実行中の場合、その処理は停止します。

削除するボリュームが別のボリュームとペアになっている場合、ペアボリューム間のレプリケーションは中断されます。削除状態の間、そのボリュームのデータは転送されません。削除されたボリュームとペアになっていたリモートボリュームは PausedMisconfigured 状態になり、削除されたボリュームとの間ではデータは送受信されません。削除されたボリュームがパージされるまでは、ボリュームをリストアしてデータ転送を再開できます。削除されたボリュームがシステムからパージされると、ペアになっていたボリュームは StoppedMisconfigured 状態になり、ボリュームペアリングのステータスが削除されます。パージされたボリュームは完全に使用できなくなります。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。



次のパラメータのうち、少なくとも 1 つが必要です。また、どちらか一方だけを使用する必要があります（すべてのパラメータが相互に排他的です）。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	システムから削除するボリュームの ID のリスト。	整数の配列	なし	注を参照してください。
ボリュームアクセスグループ ID	ボリュームアクセスグループ ID のリスト。このリストで指定したすべてのボリュームアクセスグループのすべてのボリュームがシステムから削除されます。	整数の配列	なし	注を参照してください。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
アカウント ID	アカウント ID のリスト。指定したアカウントのすべてのボリュームがシステムから削除されます。	整数の配列	なし	注を参照してください。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
個のボリューム	削除されたボリュームに関する情報。	ボリューム
カーブ（Curve）	curve は一連のキーと値のペアです。キーはバイト単位の I/O サイズです。値は、特定の I/O サイズで IOP を実行する際のコストを表します。curve は、100 IOPS の 4、096 バイトの処理セットと比較して計算されます。	JSON オブジェクト

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "DeleteVolumes",
  "params": {
    "accountIDs" : [1, 2, 3]
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id" : 1,
  "result": {
    "volumes" : [ {
      "access": "readWrite",
      "accountID": 1,
      "attributes": {},
      "blockSize": 4096,
      "createTime": "2015-03-06T18:50:56Z",
      "deleteTime": "",
      "enable512e": False,
      "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:pzsr.vclient-030-v00001.1",
      "name": "vclient-030-v00001",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15000,
        "burstTime": 60,
        "curve": {},
        "maxIOPS": 15000,
        "minIOPS": 100
      },
      "purgeTime": "",
      "sliceCount": 1,
      "scsiEUIDeviceID": "707a7372000000001f47acc0100000000",
      "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000000707a737200000001",
      "status": "active",
      "totalSize": 10000003072,
      "virtualVolumeID": 5,
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumePairs": [],
      "volumeID": 1
    } ]
  }
}

```

新規導入バージョン

9.6

GetBackupTarget

GetBackupTarget メソッドを使用すると、作成した特定のバックアップ・ターゲットに関する情報を取得できます

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
属性（Attributes）	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト	なし	いいえ
backupTargetID	バックアップターゲットに割り当てられた一意の識別子。	整数	なし	はい。
名前	バックアップターゲットの名前。	文字列	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
BackupTarget	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "method": "GetBackupTarget",
  "params": {
    "backupTargetID": 1
  }
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "backupTarget": {
      "attributes" : {
        "size" : 100
      },
      "backupTargetID" : 1,
      "name" : "mytargetbackup"
    }
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

GetVolumeStats

GetVolumeStats メソッドを使用すると、1つのボリュームのアクティビティ測定値の概要を取得できます。値は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	統計を収集するボリュームを指定します。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム統計	ボリュームのアクティビティ情報。	ボリューム統計

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetVolumeStats",
  "params": {
    "volumeID": 32
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumeStats": {
      "accountID": 1,
      "actualIOPS": 0,
      "asyncDelay": null,
      "averageIOPSize": 0,
      "burstIOPSCredit": 0,
      "clientQueueDepth": 0,
      "desiredMetadataHosts": null,
      "latencyUSec": 0,
      "metadataHosts": {
        "deadSecondaries": [],
        "liveSecondaries": [
          32
        ],
        "primary": 60
      },
      "nonZeroBlocks": 0,
      "readBytes": 0,
      "readBytesLastSample": 0,
      "readLatencyUSec": 0,
      "readOps": 0,
      "readOpsLastSample": 0,
      "samplePeriodMSec": 0,
      "throttle": 0,
      "timestamp": "2016-04-01T21:01:39.130840Z",
      "unalignedReads": 0,
      "unalignedWrites": 0,
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumeID": 1,
      "volumeSize": 5000658944,
      "volumeUtilization": 0,
      "writeBytes": 0,
      "writeBytesLastSample": 0,
      "writeLatencyUSec": 0,
      "writeOps": 0,
      "writeOpsLastSample": 0,
      "zeroBlocks": 1220864
    }
  }
}

```

GetDefaultQoS の設定

GetDefaultQoS メソッドを使用すると、新しく作成したボリュームのデフォルトの QoS 値を取得できます。

パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
QoS	デフォルトの QoS 値。	QoS

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetDefaultQoS",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "burstIOPS" : 15000,
    "burstTime" : 60,
    "curve" : {
      "1048576" : 15000,
      "131072" : 1900,
      "16384" : 270,
      "262144" : 3000,
      "32768" : 500,
      "4096" : 100,
      "524288" : 7500,
      "65536" : 1000,
      "8192" : 160
    },
    "maxIOPS" : 15000,
    "minIOPS" : 100
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

GetQoSPolicy を参照してください

GetQoSPolicy メソッドを使用すると、システムから特定の QoS ポリシーの詳細を取得できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
qosPolicyID	取得するポリシーの ID。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
QoSPolicy のように表示	要求した QoS ポリシーの詳細。	QoSPolicy のように表示

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetQoSPolicy",
  "params": {
    "qosPolicyID": 2
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "qosPolicy": {
      "name": "bronze",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15002,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
          "4096": 100,
          "8192": 160,
          "16384": 270,
          "32768": 500,
          "65536": 1000,
          "131072": 1950,
          "262144": 3900,
          "524288": 7600,
          "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15002,
        "minIOPS": 51
      },
      "qosPolicyID": 2,
      "volumeIDs": [
        2
      ]
    }
  }
}
```

新規導入バージョン

10.0

GetVolumeCount の値

GetVolumeCount メソッドを使用すると、現在システムにあるボリュームの数を取得できます。

パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
カウント	現在システムに存在するボリュームの数。	整数

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetVolumeCount",
  "params": {
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "count": 7
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

GetVolumeEfficiency を使用します

GetVolumeEfficiency メソッドを使用すると、ボリュームに関する情報を取得できます。容量の計算には、この API メソッドのパラメータとして指定したボリュームのみが使用されます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	容量を計算するボリュームを指定します。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
圧縮	単一のボリュームのデータを圧縮することで節約されるスペース量。値は比率で示され、「1」はデータが圧縮されずに格納されたことを意味します。	浮動小数点
重複排除	1 つのボリュームでデータを重複排除することによって節約される容量。比率として示されます。	浮動小数点
missingVolumes	効率性に関するデータを照会できなかったボリューム。原因としては、ガベージコレクション（GC）から 1 時間経過していない、一時的なネットワーク接続の切断、または GC サイクル後のサービスの再起動があります。	整数の配列
シンプロビジョニング	使用済みスペースとデータの格納用に割り当てられたスペースの比率。比率として示されます。	浮動小数点
タイムスタンプ	GC 後に効率性に関するデータが収集された最後の時刻。	ISO 8601 形式の日付文字列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetVolumeEfficiency",
  "params": {
    "volumeID": 606
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "compression": 2.001591240821456,
    "deduplication": 1,
    "missingVolumes": [],
    "thinProvisioning": 1.009861932938856,
    "timestamp": "2014-03-10T16:06:33Z"
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

ListActiveVolumes の場合

ListActiveVolumes メソッドを使用すると、現在システムにあるアクティブなボリュームのリストを取得できます。ボリュームのリストは、ボリューム ID 順にソートされます。複数のパート（ページ）に分けて取得することもできます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ
startVolumeID	返される最初のボリューム ID。この ID のボリュームが存在しない場合は、ID 順で次に位置するボリュームがリストの先頭として使用されます。リストをページングするには、前の応答の最後のボリュームに「1」を加えたボリューム ID を渡します。	整数	0	いいえ
制限（Limit）	返されるボリューム情報オブジェクトの最大数。0（ゼロ）はすべてのボリュームを返します（無制限）。	整数	無制限	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
個のボリューム	アクティブなボリュームのリスト。	ボリューム 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListActiveVolumes",
  "params": {
    "startVolumeID" : 0,
    "limit" : 1000
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

この応答例は分量が多いため、補足のトピックに記載しています。

新規導入バージョン

9.6

ListBackupTargets を参照します

「ListBackupTargets」メソッドを使用すると、作成済みのすべてのバックアップターゲットに関する情報を取得できます。

パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
バックアップターゲット	<p>各バックアップターゲットに返されるオブジェクト。含まれるオブジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> • attributes : JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。（JSON オブジェクト）。 • backupTargetID : バックアップターゲットに割り当てられた一意の識別子。整数 • name : バックアップターゲットの名前。文字列 	JSON オブジェクト

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListBackupTargets",
  "params": {},
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "backupTargets": [
      {
        "attributes" : {},
        "backupTargetID" : 1,
        "name" : "mytargetbackup"
      }
    ]
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

ListBulkVolumeJobs

「ListBulkVolumeJobs」メソッドを使用すると、システムで発生している各ボリュームの一括読み取り / 書き込み処理に関する情報を取得できます。

パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
bulkVolumeJobs	各一括ボリュームジョブの情報の配列。	bulkVolumeJob 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListBulkVolumeJobs",
  "params": {
    },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "bulkVolumeJobs": [
      {
        "attributes": {
          "blocksPerTransfer": 1024,
          "firstPendingLba": 216064,
          "nLbas": 2441472,
          "nextLba": 226304,
          "pendingLbas": "[220160, 223232, 221184, 224256, 217088,
225280, 222208, 218112, 219136, 216064]",
          "percentComplete": 8,
          "startLba": 0
        },
        "bulkVolumeID": 2,
        "createTime": "2015-05-07T14:52:17Z",
        "elapsedTime": 44,
        "format": "native",
        "key": "eaffb0526d4fb47107061f09bfc9a806",
        "percentComplete": 8,
        "remainingTime": 506,
        "script": "bv_internal.py",
        "snapshotID": 509,
        "srcVolumeID": 3,
        "status": "running",
        "type": "read"
      }
    ]
  }
}

```

新規導入バージョン

9.6

ListDeletedVolumes の場合

ListDeletedVolumes メソッドを使用すると、削除対象としてマークされてシステムからページされたボリュームのリストを取得できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
個のボリューム	削除されたボリュームのリスト。	ボリューム 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListDeletedVolumes",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "readWrite",
        "accountID": 2,
        "attributes": {},
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2018-06-24T03:13:13Z",
        "deleteTime": "2018-07-22T16:12:39Z",
        "enable512e": true,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:0oto.deletethis.23",
        "name": "deleteThis",
        "purgeTime": "2016-07-23T00:12:39Z",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
          "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
          },
          "maxIOPS": 15000,
          "minIOPS": 50
        },
        "scsiEUIDeviceID": "306f746f000000017f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000000306f746f000000017",
        "sliceCount": 1,
        "status": "deleted",
        "totalSize": 1396703232,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 23,
        "volumePairs": []
      }
    ]
  }
}

```

ListQoSPolicies の順にクリックします

「ListQoSPolicy」メソッドを使用して、システム上のすべての QoS ポリシーの設定を一覧表示できます。

パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
qosPolicies ページにアクセスします	各 QoS ポリシーに関する詳細のリスト。	QoSPolicy のように表示 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 231,
  "method": "ListQoSPolicies",
  "params": {}
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 231,
  "result": {
    "qosPolicies": [
      {
        "name": "silver",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
```

```

        "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 14000,
        "minIOPS": 50
    },
    "qosPolicyID": 1,
    "volumeIDs": [
        1
    ]
},
{
    "name": "bronze",
    "qos": {
        "burstIOPS": 15000,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15000,
        "minIOPS": 50
    },
    "qosPolicyID": 2,
    "volumeIDs": [
        2
    ]
}
]
}
}

```

ListSyncJobs

「ListSyncJobs」メソッドを使用すると、Element ストレージクラスタで実行中の同期ジョブに関する情報を取得できます。スライス、クローン、ブロック、およびリモートの同期ジョブに関する情報が返されます。

パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
syncJobs	システムで現在実行中の同期プロセスの詳細を示すオブジェクトのリスト。	syncJob 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListSyncJobs",
  "params": { },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id":1,
  "result":{
    "syncJobs":[
      {
        "bytesPerSecond":275314.8834458956,
        "currentBytes":178257920,
```

```

        "dstServiceID":36,
        "elapsedTime":289.4568382049871,
        "percentComplete":8.900523560209423,
        "remainingTime":2962.675921065957,
        "sliceID":5,
        "srcServiceID":16,
        "stage":"whole",
        "totalBytes":2002780160,
        "type":"slice"
    },
    {
        "bytesPerSecond":305461.3198607744,
        "cloneID":1,
        "currentBytes":81788928,
        "dstServiceID":16,
        "dstVolumeID":6,
        "elapsedTime":291.7847648200743,
        "nodeID":1,
        "percentComplete":8.167539267015707,
        "remainingTime":3280.708270981153,
        "sliceID":6,
        "srcServiceID":16,
        "srcVolumeID":5,
        "stage":"whole",
        "totalBytes":1001390080,
        "type":"clone"
    },
    {
        "blocksPerSecond":0,
        "branchType": "snapshot",
        "dstServiceID":8,
        "dstVolumeID":2,
        "elapsedTime":0,
        "percentComplete":0,
        "remainingTime":0,
        "sliceID":2,
        "stage":"metadata",
        "type":"remote"
    }
]
}

```


ListVolumeQoSHistograms

「ListVolumeQoSHistograms」メソッドを使用すると、1 つまたは複数のボリュームの QoS 使用状況のヒストグラムを生成できます。これにより、ボリュームで QoS がどのように使用されているかを把握できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	QoS ヒストグラムを生成するボリュームを指定する、ボリューム ID のオプションのリスト。	整数の配列	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
qosHistograms （qosHistogram	ボリュームの使用状況を示すオブジェクトのリスト。	JSON オブジェクトの配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeQoSHistograms",
  "params": {
    "volumeIDs": [1]
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "qosHistograms": [
      {
        "histograms": {
          "belowMinIopsPercentages": {
            "Bucket1To19": 2406,
            "Bucket20To39": 3,
            "Bucket40To59": 0,
            "Bucket60To79": 4,
            "Bucket80To100": 0
          },
          "minToMaxIopsPercentages": {
            "Bucket101Plus": 0,
            "Bucket1To19": 0,
            "Bucket20To39": 0,
            "Bucket40To59": 2,
            "Bucket60To79": 0,
            "Bucket80To100": 0
          },
          "readBlockSizes": {
            "Bucket131072Plus": 0,
            "Bucket16384To32767": 0,
            "Bucket32768To65535": 0,
            "Bucket4096To8191": 0,
            "Bucket65536To131071": 0,
            "Bucket8192To16383": 0
          },
          "targetUtilizationPercentages": {
            "Bucket0": 134943,
            "Bucket101Plus": 0,
            "Bucket1To19": 2409,
            "Bucket20To39": 4,
            "Bucket40To59": 0,
            "Bucket60To79": 2,
            "Bucket80To100": 0
          },
          "throttlePercentages": {
            "Bucket0": 137358,
            "Bucket1To19": 0,
            "Bucket20To39": 0,
            "Bucket40To59": 0,
            "Bucket60To79": 0,
            "Bucket80To100": 0
          }
        }
      }
    ]
  }
}

```

```

    },
    "writeBlockSizes": {
      "Bucket131072Plus": 0,
      "Bucket16384To32767": 0,
      "Bucket32768To65535": 0,
      "Bucket4096To8191": 0,
      "Bucket65536To131071": 0,
      "Bucket8192To16383": 0
    }
  },
  "timestamp": "2018-06-21T18:45:52.010844Z",
  "volumeID": 1
}
]
}
}

```

ListVolumes の場合

ListVolumes メソッドを使用すると、クラスタ内のボリュームのリストを取得できます。パラメータを使用して、リストで返すボリュームを指定できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
アカウント	ここで指定したアカウントが所有するボリュームのみが返されます。volumeIDs パラメータと同時に指定することはできません。	整数の配列	なし	いいえ
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
障害があります	<p>ペアリングされているボリュームまたはペアリングされていないボリュームを返します有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : ペアリングされているすべてのボリュームを返します。 • false : ペアリングされていないすべてのボリュームを返します。 	ブール値	なし	いいえ
制限 (Limit)	返されるボリューム数を設定できます。volumeIDs パラメータと同時に指定することはできません。	整数	10000	いいえ
startVolumeID	ID の値が指定した値以上のボリュームのみが返されます。volumeIDs パラメータと同時に指定することはできません。	整数	なし	いいえ
ボリューム ID	ボリューム ID のリスト。このパラメータを指定すると、他のパラメータはこのパラメータで指定したボリュームに対してのみ適用されます。accounts 、startVolumeID 、limit パラメータと同時に指定することはできません。	整数の配列	いいえ	いいえ
ボリューム名	ボリューム名が一致するボリュームのオブジェクト情報のみが返されます。	文字列	いいえ	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリュームステータス	ステータス値が等しいボリュームのみが返されます。有効な値は次のとおり <ul style="list-style-type: none"> ・ 作成中です ・ スナップショット ・ アクティブ ・ 削除済み 	文字列	いいえ	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
個のボリューム	ボリュームのリスト。	ボリューム 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumes",
  "params": {
    "volumeIDs": [1],
    "volumeStatus": "active",
    "isPaired": "false"
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "readWrite",
        "accountID": 1,
        "attributes": {},
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2016-03-28T14:39:05Z",
        "deleteTime": "",
        "enable512e": true,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:testvolume1.1",
        "name": "testVolume1",
        "purgeTime": "",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
          "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
          },
          "maxIOPS": 15000,
          "minIOPS": 50
        },
        "scsiEUIDeviceID": "6a796179000000001f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc10000000006a79617900000001",
        "sliceCount": 1,
        "status": "active",
        "totalSize": 5000658944,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 1,
        "volumePairs": []
      }
    ]
  }
}

```

ListVolumeStats の値

「ListVolumeStats」メソッドを使用すると、単一のボリューム、ボリュームのリスト、またはすべてのボリューム（ボリューム ID パラメータを省略した場合）のアクティビティ測定値の概要を取得できます。測定値は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ
ボリューム ID	アクティビティ情報を取得するボリュームのリスト。	整数の配列	いいえ	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム統計	ボリュームアクティビティ情報のリスト。	ボリューム統計 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeStats",
  "params": {
    "volumeIDs": [1]
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumeStats": [
      {
        "accountID": 1,
        "actualIOPS": 0,
        "asyncDelay": null,
        "averageIOPSize": 0,
        "burstIOPSCredit": 30000,
        "clientQueueDepth": 0,
        "desiredMetadataHosts": null,
        "latencyUSec": 0,
        "metadataHosts": {
          "deadSecondaries": [],
          "liveSecondaries": [
            47
          ],
          "primary": 33
        },
        "nonZeroBlocks": 22080699,
        "readBytes": 657262370816,
        "readBytesLastSample": 0,
        "readLatencyUSec": 0,
        "readOps": 160464446,
        "readOpsLastSample": 0,
        "samplePeriodMSec": 500,
        "throttle": 0,
        "timestamp": "2016-03-09T19:39:15.771697Z",
        "unalignedReads": 0,
        "unalignedWrites": 0,
        "volumeAccessGroups": [
```



```

        1
    ],
    "volumeID": 1,
    "volumeSize": 107374182400,
    "volumeUtilization": 0,
    "writeBytes": 219117547520,
    "writeBytesLastSample": 0,
    "writeLatencyUsec": 0,
    "writeOps": 53495495,
    "writeOpsLastSample": 0,
    "zeroBlocks": 4133701
}
]
}
}

```

新規導入バージョン

9.6

ListVolumesForAccount を実行します

「ListVolumesForAccount」メソッドを使用して、アカウントのアクティブなボリュームと（保留中の）削除されたボリュームを表示できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ
アカウント ID	このアカウント ID が所有するすべてのボリュームが返されます。	整数	いいえ	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
個のボリューム	ボリューム情報のリスト。	ボリューム 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumesForAccount",
  "params": {
    "accountID" : 1
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "readWrite",
        "accountID": 1,
        "attributes": {},
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2018-07-22T16:15:25Z",
        "deleteTime": "",
        "enable512e": false,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:0oto.test1.25",
        "name": "test1",
        "purgeTime": "",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
          "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
          },
          "maxIOPS": 15000,
          "minIOPS": 50
        },
        "scsiEUIDeviceID": "306f746f000000019f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000000306f746f000000019",
        "sliceCount": 1,
        "status": "active",
        "totalSize": 1000341504,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 25,
        "volumePairs": []
      }
    ]
  }
}

```

ListVolumeStatsByAccount

「ListVolumeStatsByAccount」メソッドを使用すると、すべてのアカウントのボリュームアクティビティ測定値の概要をリストできます。値はアカウントが所有するすべてのボリュームの合計値です。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ
アカウント	ボリュームの統計を返すアカウント ID のリスト。省略すると、すべてのアカウントの統計が返されます。	整数の配列	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム統計	各アカウントのボリュームアクティビティ情報のリスト。* 注：この値はアカウントが所有するすべてのボリュームの合計を表すため、各エントリのボリューム ID メンバーは 0 です。	ボリューム統計 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeStatsByAccount",
  "params": {"accounts": [3]},
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumeStats": [
      {
        "accountID": 3,
        "nonZeroBlocks": 155040175,
        "readBytes": 3156273328128,
        "readBytesLastSample": 0,
        "readOps": 770574543,
        "readOpsLastSample": 0,
        "samplePeriodMSec": 500,
        "timestamp": "2016-10-17T20:42:26.231661Z",
        "unalignedReads": 0,
        "unalignedWrites": 0,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 0,
        "volumeSize": 1127428915200,
        "writeBytes": 1051988406272,
        "writeBytesLastSample": 0,
        "writeOps": 256833107,
        "writeOpsLastSample": 0,
        "zeroBlocks": 120211025
      }
    ]
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

ListVolumeStatsByVirtualVolume

ListVolumeStatsByVirtualVolume メソッドを使用すると、仮想ボリュームに関連付けられているシステム内のすべてのボリュームのボリューム統計情報をリストできます。統計は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
仮想ボリューム ID	情報を取得する 1 つ以上の仮想ボリューム ID のリスト。このパラメータを指定すると、メソッドは指定した仮想ボリュームに関する情報のみを返します。	UUID 文字列の配列	いいえ	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム統計	システム内の各仮想ボリュームのアクティビティ情報を含むオブジェクトのリスト。	ボリューム統計 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeStatsByVirtualVolume",
  "params": {},
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
```

```

"id": 1,
"result": {
  "volumeStats": [
    {
      "accountID": 17,
      "actualIOPS": 0,
      "asyncDelay": null,
      "averageIOPSize": 1074265444,
      "burstIOPSCredit": 0,
      "clientQueueDepth": 0,
      "desiredMetadataHosts": null,
      "latencyUSec": 0,
      "metadataHosts": {
        "deadSecondaries": [],
        "liveSecondaries": [
          26
        ],
        "primary": 56
      },
      "nonZeroBlocks": 36,
      "readBytes": 18366464,
      "readBytesLastSample": 0,
      "readLatencyUSec": 0,
      "readOps": 156,
      "readOpsLastSample": 0,
      "samplePeriodMSec": 500,
      "throttle": 0,
      "timestamp": "2016-10-10T17:46:35.914642Z",
      "unalignedReads": 156,
      "unalignedWrites": 185,
      "virtualVolumeID": "070ac0ba-f344-4f4c-b79c-142efa3642e8",
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumeID": 12518,
      "volumeSize": 91271200768,
      "volumeUtilization": 0,
      "writeBytes": 23652213248,
      "writeBytesLastSample": 0,
      "writeLatencyUSec": 0,
      "writeOps": 185,
      "writeOpsLastSample": 0,
      "zeroBlocks": 22282972
    }
  ]
}

```

ListVolumeStatsByVolume を参照してください

「ListVolumeStatsByVolume」メソッドを使用すると、すべてのボリュームのボリュームごとのアクティビティ測定値の概要をリストできます。値は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム統計	ボリュームアクティビティ情報のリスト。	ボリューム統計 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeStatsByVolume",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。




```

{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumeStats": [
      {
        "accountID": 3,
        "actualIOPS": 0,
        "asyncDelay": null,
        "averageIOPSize": 4096,
        "burstIOPSCredit": 30000,
        "clientQueueDepth": 0,
        "desiredMetadataHosts": null,
        "latencyUSec": 0,
        "metadataHosts": {
          "deadSecondaries": [],
          "liveSecondaries": [
            16
          ],
          "primary": 12
        },
        "nonZeroBlocks": 7499205,
        "readBytes": 159012818944,
        "readBytesLastSample": 0,
        "readLatencyUSec": 0,
        "readOps": 38821489,
        "readOpsLastSample": 0,
        "samplePeriodMSec": 500,
        "throttle": 0,
        "timestamp": "2016-10-17T20:55:31.087537Z",
        "unalignedReads": 0,
        "unalignedWrites": 0,
        "volumeAccessGroups": [
          1
        ],
        "volumeID": 1,
        "volumeSize": 53687091200,
        "volumeUtilization": 0,
        "writeBytes": 52992585728,
        "writeBytesLastSample": 0,
        "writeLatencyUSec": 0,
        "writeOps": 12937643,
        "writeOpsLastSample": 0,
        "zeroBlocks": 5607995
      }
    ]
  }
}

```

```
}
```

新規導入バージョン

9.6

ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup

「ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup」メソッドを使用すると、指定したボリュームアクセスグループのメンバーであるすべてのボリュームのアクティビティ測定値の合計をリストできます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、false に設定します。	ブール値	正しいです	いいえ
volumeAccessGroups	ボリュームアクティビティが返されるボリュームアクセスグループ ID の配列。省略すると、すべてのボリュームアクセスグループの統計が返されます。	整数の配列	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム統計	指定したボリュームアクセスグループ内のすべてのボリュームのボリュームアクティビティ情報のリスト。* メモ：この値はアカウントが所有するすべてのボリュームの合計を表すため、各エントリのボリューム ID メンバーは 0 です。	ボリューム統計

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup",
  "params": {"volumeAccessGroups": [1]},
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumeStats": [
      {
        "accountID": 0,
        "nonZeroBlocks": 149366393,
        "readBytes": 3156273328128,
        "readBytesLastSample": 0,
        "readOps": 770574543,
        "readOpsLastSample": 0,
        "samplePeriodMSec": 500,
        "timestamp": "2016-10-17T21:04:10.712370Z",
        "unalignedReads": 0,
        "unalignedWrites": 0,
        "volumeAccessGroups": [
          1
        ],
        "volumeID": 0,
        "volumeSize": 1073741824000,
        "writeBytes": 1051988406272,
        "writeBytesLastSample": 0,
        "writeOps": 256833107,
        "writeOpsLastSample": 0,
        "zeroBlocks": 112777607
      }
    ]
  }
}
```

ModifyBackupTarget

バックアップターゲットの属性を変更するには、「ModyBackupTarget」メソッドを使用します。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
backupTargetID	変更するターゲットの一意の ID。	整数	なし	はい。
属性（Attributes）	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト	なし	いいえ
名前	バックアップターゲットの新しい名前。	文字列	なし	いいえ

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ModifyBackupTarget",
  "params": {
    "backupTargetID" : 1,
    "name": "yourtargetS3"
    "attributes" : {
      "size" : 500,
    }
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

ModifyQoSPolicy のように変更します

「modifyQoSPolicy」メソッドを使用して、システム上の既存の QoS ポリシーを変更できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
qosPolicyID	変更するポリシーの ID。	整数	なし	はい。
名前	指定した場合、QoS ポリシーの名前（gold、platinum、silver など）がこの値に変更されます。	文字列	なし	いいえ
QoS	指定した場合、このポリシーの QoS 設定がこれらの設定に変更されます。指定できる QoS 値は一部だけで、一部の QoS 設定のみを変更できます。	QoS オブジェクト	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
QoSPolicy のように表示	変更後の新しい QoS ポリシーの詳細。	QoSPolicy のように表示

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 1950,
  "method": "ModifyQoSPolicy",
  "params": {
    "qosPolicyID": 2,
    "qos": {
      "minIOPS": 51,
      "maxIOPS": 15002,
      "burstIOPS": 15002
    }
  }
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1950,
  "result": {
    "qosPolicy": {
      "name": "bronze",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15002,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
          "4096": 100,
          "8192": 160,
          "16384": 270,
          "32768": 500,
          "65536": 1000,
          "131072": 1950,
          "262144": 3900,
          "524288": 7600,
          "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15002,
        "minIOPS": 51
      },
      "qosPolicyID": 2,
      "volumeIDs": [
        2
      ]
    }
  }
}
```

新規導入バージョン

10.0

ModifyVolume の追加

「modifyVolume」メソッドを使用すると、既存のボリュームの設定を変更できます。一度に 1 つのボリュームを変更できます。変更はすぐに反映されます。

ボリュームを変更するときに QoS 値を指定しない場合、変更前と同じ値が適用されます。GetDefaultQoS メソッドを実行すると、新しく作成したボリュームのデフォルトの QoS 値を取得できます。

レプリケート中のボリュームのサイズを拡張する必要がある場合は、レプリケーションエラーを回避するために次の手順で実行します。

1. replicationTarget アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。
2. ソース、つまり readWrite アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。

ターゲットボリュームとソースボリュームを必ず同じサイズにしてください。



アクセスステータスを locked または replicationTarget に変更すると、すべての既存の iSCSI 接続が終了します。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	変更するボリュームの ID。	整数	なし	はい。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
にアクセスします	<p>ボリュームに許可するアクセス。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>readOnly</code> : 読み取り操作のみが許可されます。 • 「<code>readWrite</code>」 : 読み取りと書き込みが可能です。 • <code>locked</code> : 読み取りや書き込みは許可されません。指定しない場合、アクセス値は変更されません。 • 「リプリケーションターゲット」 : ペアリングされたボリュームセットのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。ボリュームがペアリングされていない場合、アクセスステータスは <code>locked</code> になります。値を指定しない場合、アクセス値は変更されません。 • 「<code>napMirrorTarget</code>」 : <code>SnapMirror</code> レプリケーションのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。 	文字列	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
アカウント ID	ボリュームを再割り当てするアカウント ID。指定しない場合は、以前のアカウント名が使用されます。	整数	なし	いいえ
associateWithQoSPolicy	<p>指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : QoSPolicy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。 • false : QoSPolicy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けないでください。false の場合、QoSPolicy パラメータで QoS ポリシーを指定したかどうかに関係なく、既存のポリシーの関連付けが削除されます。 	ブール値	なし	いいえ
属性（Attributes）	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト	なし	いいえ
CreateTime をクリックします	新しいボリューム作成日として設定する ISO 8601 形式の日付文字列。setCreateTime を true に設定した場合は必須です。	ISO 8601 形式の文字列	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
enableSnapMirrorReplication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「真」 ・「偽」 	ブール値	いいえ	いいえ
50 サイズ	<p>ボリュームでサポートされる FIFO（First-In First-Out）スナップショットの最大数を指定します。FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットはどちらも、ボリューム上で使用可能なスナップショットスロットの同じプールを使用することに注意してください。このオプションを使用して、使用可能なスナップショットスロットの FIFO スナップショットの消費を制限します。この値を現在の FIFO スナップショットカウントよりも小さく変更することはできません。</p>	整数	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
minFifoSize	<p>FIFO（First-In First-Out）スナップショットだけに予約されているスナップショットスロットの数を指定します。FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットは同じプールを共有するため、minFifoSize パラメータは、可能な非 FIFO スナップショットの合計数を同じ量だけ減らします。この値は、現在の FIFO 以外のスナップショット数と競合するように変更することはできません。</p>	整数	なし	いいえ
モード	<p>ボリュームのレプリケーションモード。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「asynch」：ターゲットに書き込む前に、データがソースに格納されていることをシステムが確認するのを待ちます。 • 「同期」：ソースからのデータ転送の確認応答を待機せずに、ターゲットへのデータの書き込みを開始します。 	文字列	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
QoS	このボリュームの新しい QoS 設定。指定しない場合、QoS 設定は変更されません。有効な値は次のとおり <ul style="list-style-type: none"> • 「IOPS」 • 「最大軸 IOPS」 • 「burstIOPS」 	QoS	なし	いいえ
qosPolicyID	指定したボリュームに適用する QoS 設定が定義されたポリシーの ID。このパラメータは、qos パラメータと同時に指定することはできません。	整数	なし	いいえ
setCreateTime	true に設定すると、記録されているボリューム作成日が変更されます。	ブール値	なし	いいえ
合計サイズ	ボリュームの新しいサイズ（バイト）。1、000、000、000 は 1GB に相当します。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。このパラメータは、ボリュームのサイズを拡張する場合にのみ使用できます。	整数	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム	変更されたボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ModifyVolume",
  "params": {
    "volumeID": 5,
    "attributes": {
      "name1": "value1",
      "name2": "value2",
      "name3": "value3"
    },
    "qos": {
      "minIOPS": 60,
      "maxIOPS": 100,
      "burstIOPS": 150,
      "burstTime": 60
    },
    "access" : "readWrite"
  },
  "totalSize": 20000000000,
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volume": {
      "access": "readWrite",
      "accountID": 1,
      "attributes": {
        "name1": "value1",
        "name2": "value2",
        "name3": "value3"
      },
      "blockSize": 4096,
      "createTime": "2016-03-28T16:16:13Z",
      "deleteTime": "",
      "enable512e": true,
      "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jyay.1459181777648.5",

```

```

    "name": "1459181777648",
    "purgeTime": "",
    "qos": {
      "burstIOPS": 150,
      "burstTime": 60,
      "curve": {
        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
      },
      "maxIOPS": 100,
      "minIOPS": 60
    },
    "scsiEUIDeviceID": "6a79617900000005f47acc0100000000",
    "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000006a79617900000005",
    "sliceCount": 1,
    "status": "active",
    "totalSize": 1000341504,
    "virtualVolumeID": null,
    "volumeAccessGroups": [
      1
    ],
    "volumeID": 5,
    "volumePairs": []
  }
}

```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[GetDefaultQoS の設定](#)

ModifyVolumes の場合に使用でき

「modifyVolumes」メソッドを使用すると、一度に最大 500 個の既存ボリュームを設定

できます。変更はすぐに反映されます。「modifyVolumes」で指定されたボリュームのいずれかを変更できない場合、指定されたボリュームはどれも変更されません。

ボリュームを変更するときに QoS 値を指定しない場合、各ボリュームの QoS 値は変更されません。GetDefaultQoS メソッドを実行すると、新しく作成したボリュームのデフォルトの QoS 値を取得できます。

レプリケート中のボリュームのサイズを拡張する必要がある場合は、レプリケーションエラーを回避するために次の手順で実行します。

1. replicationTarget アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。
2. ソース、つまり readWrite アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。

ターゲットボリュームとソースボリュームを必ず同じサイズにしてください。



アクセスステータスを locked または replicationTarget に変更すると、すべての既存の iSCSI 接続が終了します。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
----	----	--------	--------	----

にアクセスします	<p>ボリュームに許可するアクセス。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>readOnly</code> : 読み取り操作のみが許可されます。 • 「<code>readWrite</code>」 : 読み取りと書き込みが可能です。 • <code>locked</code> : 読み取りや書き込みは許可されません。指定しない場合、アクセス値は変更されません。 • 「リプリケーションターゲット」 : ペアリングされたボリュームセットのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。ボリュームがペアリングされていない場合、アクセスステータスは <code>locked</code> になります。値を指定しない場合、アクセス値は変更されません。 	文字列	なし	いいえ
アカウント ID	<p>ボリュームを再割り当てするアカウント ID。指定しない場合は、以前のアカウント名が使用されます。</p>	整数	なし	いいえ

associateWithQoSPolicy	<p>指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : QoSPolicy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。 • false : QoSPolicy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けない。false の場合、QoSPolicy パラメータで QoS ポリシーを指定したかどうかに関係なく、既存のポリシーの関連付けが削除されます。 	ブール値	なし	いいえ
属性 (Attributes)	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON オブジェクト	なし	いいえ
CreateTime をクリックします	新しいボリューム作成日として設定する ISO 8601 形式の日付文字列。setCreateTime を true に設定した場合は必須です。	ISO 8601 形式の文字列	なし	いいえ
enableSnapMirrorReplication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「真」 • 「偽」 	ブール値	いいえ	いいえ

50 サイズ	<p>ボリュームでサポートされる FIFO (First-In First-Out) スナップショットの最大数を指定します。FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットはどちらも、ボリューム上で使用可能なスナップショットスロットの同じプールを使用することに注意してください。このオプションを使用して、使用可能なスナップショットスロットの FIFO スナップショットの消費を制限します。この値を現在の FIFO スナップショットカウントよりも小さく変更することはできません。</p>	整数	なし	いいえ
minFifoSize	<p>FIFO (First-In First-Out) スナップショットだけに予約されているスナップショットスロットの数を指定します。FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットは同じプールを共有するため、minFifoSize パラメータは、可能な非 FIFO スナップショットの合計数を同じ量だけ減らします。この値は、現在の FIFO 以外のスナップショット数と競合するように変更することはできません。</p>	整数	なし	いいえ

モード	<p>ボリュームのレプリケーションモード。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「asynch」：ターゲットに書き込む前に、データがソースに格納されていることをシステムが確認するのを待ちます。 • 「同期」：ソースからのデータ転送の確認応答を待機せずに、ターゲットへのデータの書き込みを開始します。 	文字列	なし	いいえ
QoS	<p>ボリュームの新しい QoS 設定。指定しない場合、QoS 設定は変更されません。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「IOPS」 • 「最大軸 IOPS」 • 「burstIOPS」 	QoS	なし	いいえ
qosPolicyID	<p>指定したボリュームに適用する QoS 設定が定義されたポリシーの ID。このパラメータは、qos パラメータと同時に指定することはできません。</p>	整数	なし	いいえ
setCreateTime	<p>true に設定すると、記録されているボリューム作成日が変更されます。</p>	ブール値	なし	いいえ

合計サイズ	ボリュームの新しいサイズ（バイト）。1、000、000、000 は 1GB に相当します。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。このパラメータは、ボリュームのサイズを拡張する場合にのみ使用できます。	整数	なし	いいえ
ボリューム ID	変更するボリュームの ID のリスト。	整数の配列	なし	はい。

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ボリューム	変更された各ボリュームの情報を 含むオブジェクトの配列。	ボリューム 配列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ModifyVolumes",
  "params": {
    "volumeIDs": [2,3],
    "attributes": {
      "name1": "value1",
      "name2": "value2",
      "name3": "value3"
    },
    "qos": {
      "minIOPS": 50,
      "maxIOPS": 100,
      "burstIOPS": 150,
      "burstTime": 60
    },
    "access" : "replicationTarget"
  },
  "totalSize": 800000000000,
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "replicationTarget",
        "accountID": 1,
        "attributes": {
          "name1": "value1",
          "name2": "value2",
          "name3": "value3"
        },
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2016-04-06T17:25:13Z",
        "deleteTime": "",
        "enable512e": false,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jo73.2",
        "name": "doctest1",
        "purgeTime": "",

```

```

    "qos": {
      "burstIOPS": 150,
      "burstTime": 60,
      "curve": {
        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
      },
      "maxIOPS": 100,
      "minIOPS": 50
    },
    "scsiEUIDeviceID": "6a6f373300000002f47acc0100000000",
    "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000006a6f373300000002",
    "sliceCount": 1,
    "status": "active",
    "totalSize": 1000341504,
    "virtualVolumeID": null,
    "volumeAccessGroups": [],
    "volumeID": 2,
    "volumePairs": []
  },
  {
    "access": "replicationTarget",
    "accountID": 1,
    "attributes": {
      "name1": "value1",
      "name2": "value2",
      "name3": "value3"
    },
    "blockSize": 4096,
    "createTime": "2016-04-06T17:26:31Z",
    "deleteTime": "",
    "enable512e": false,
    "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jo73.3",
    "name": "doctest2",
    "purgeTime": "",
    "qos": {
      "burstIOPS": 150,
      "burstTime": 60,
      "curve": {

```

```

        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
    },
    "maxIOPS": 100,
    "minIOPS": 50
},
"scsiEUIDeviceID": "6a6f373300000003f47acc0100000000",
"scsiNAADeviceID": "6f47acc10000000006a6f373300000003",
"sliceCount": 1,
"status": "active",
"totalSize": 1000341504,
"virtualVolumeID": null,
"volumeAccessGroups": [],
"volumeID": 3,
"volumePairs": []
}
]
}
}

```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[GetDefaultQoS の設定](#)

PurgeDeletedVolume のこと

PurgeDeletedVolume メソッドを使用すると、削除されたボリュームをただちに完全にページできます。ページする前に、「削除ボリューム」を使用してボリュームを削除する必要があります。

ボリュームは一定期間の経過後に自動的にページされるため、通常はこのメソッドを使用する必要はありません。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	パージするボリュームの ID。	整数	いいえ	はい。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "PurgeDeletedVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 5
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result": {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[DeleteVolume](#)

PurgeDeletedVolumes の場合

PurgeDeletedVolumes メソッドを使用すると、削除されたボリュームをただちに完全に

ページできます。このメソッドを使用すると、一度に最大 500 個のボリュームをページできます。

ページする前に `deleteVolumes` を使用してボリュームを削除する必要があります。ボリュームは一定期間の経過後に自動的にページされるため、通常はこのメソッドを使用する必要はありません。



一度に大量のボリュームをページする場合や、各ボリュームをページする際に多数の Snapshot が関連付けられている場合は、メソッドが失敗してエラー「`xDBConnectionLoss`」が返されることがあります。この場合は、ボリューム数を減らしてもう一度メソッド呼び出しを実行してください。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	システムからページするボリュームの ID のリスト。	整数の配列	いいえ	いいえ
アカウント ID	アカウント ID のリスト。指定したすべてのアカウントのすべてのボリュームがシステムからページされます。	整数の配列	いいえ	いいえ
ボリュームアクセスグループ ID	ボリュームアクセスグループ ID のリスト。指定したすべてのボリュームアクセスグループのすべてのボリュームがシステムからページされます。	整数の配列	いいえ	いいえ

- ・注：* メソッド呼び出しごとに、上記のパラメータのうち 1 つだけを指定できます。複数のパラメータを指定した場合やパラメータを指定しなかった場合は、エラーが発生します。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "PurgeDeletedVolumes",
  "params": {
    "accountIDs" : [1, 2, 3]
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result": {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[DeleteVolumes](#)

RemoveBackupTarget

RemoveBackupTarget メソッドを使用すると、バックアップ・ターゲットを削除できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
backupTargetID	削除するターゲットの一意の ID。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "RemoveBackupTarget",
  "params": {
    "backupTargetID" : 1
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

RestoreDeletedVolume

「RestoreDeletedVolume」メソッドを使用すると、削除したボリュームを再びアクティブとしてマークできます。この操作により、ボリュームはただちに iSCSI 接続で使用できるようになります。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ボリューム ID	リストアする削除済みボリュームの ID。 。	整数	なし	はい。

戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "RestoreDeletedVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 5
  },
  "id" : 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result": {}
}
```

新規導入バージョン

9.6

SetDefaultQoS の設定

「デフォルトの QoS」メソッドを使用すると、ボリュームのデフォルトの QoS 値（1 秒あたりの入出力数、または IOPS で測定）を設定できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
Min IOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最小 IOPS。	整数	なし	いいえ
maxIOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最大 IOPS。	整数	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
burstIOPS	短時間のバースト時に許容される最大 IOPS。	整数	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
Min IOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最小 IOPS。	整数
maxIOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最大 IOPS。	整数
burstIOPS	短時間のバースト時に許容される最大 IOPS。	整数

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "SetDefaultQoS",
  "params": {
    "burstIOPS": 8000,
    "maxIOPS": 1000,
    "minIOPS": 200
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id":1,
  "result": {
    "burstIOPS":8000,
    "maxIOPS":1000,
    "minIOPS":200
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

StartBulkVolumeRead

「artBulkVolumeRead」メソッドを使用すると、指定したボリュームの一括ボリューム読み取りセッションを開始できます。

1 つのボリュームで同時に実行できる一括ボリュームプロセスは 2 つだけです。セッションを初期化すると、SolidFire ストレージボリュームからデータが読み取られ、外部のバックアップソースに保存されます。外部データは、Element ストレージノードで実行されている Web サーバからアクセスされます。外部データアクセスに関するサーバ操作の情報は、ストレージシステムで実行中のスクリプトによって渡されます。

ボリュームの一括読み取り処理の開始時にボリュームの Snapshot が作成され、読み取りが完了すると削除されます。また、Snapshot の ID をパラメータとして入力し、ボリュームの Snapshot を読み取ることもできます。以前の Snapshot を読み取った場合、ボリュームの新しい Snapshot は作成されず、読み取りが完了したときに以前の Snapshot も削除されません。



既存の Snapshot の ID を指定しない場合、新しい Snapshot が作成されます。Snapshot を作成できるのは、クラスタフルが「ステージ 2」または「ステージ 3」の場合です。クラスタフルが「ステージ 4」または「ステージ 5」の場合、Snapshot は作成されません。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
の形式で入力し	<p>ボリュームデータの形式。次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • uncompressed ：ボリュームのすべてのバイトが圧縮されずに返されます。 • ネイティブ : 非透過的なデータが返されますこれは 'サイズが小さく ' 後続のボリュームの一括書き込みでより効率的に保存および書き込みが行われます 	文字列	なし	はい。
ボリューム ID	読み取るボリュームの ID 。	整数	なし	はい。
Snapshot ID	ボリュームの一括読み取りで使用する、以前に作成された Snapshot の ID 。 ID を入力しない場合は、現在のアクティブボリュームイメージの Snapshot が作成されます。	整数	なし	いいえ
スクリプト	<p>実行可能スクリプトの名前。スクリプト名を指定しない場合は、Element ストレージノードにアクセスするためにキーと URL が必要です。スクリプトはプライマリノードに対して実行され、キーと URL がスクリプトに返されます。これにより、ローカル Web サーバにアクセスできるようになります。</p>	文字列	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
scriptParameters	スクリプトに渡す JSON パラメータ。	JSON オブジェクト	なし	いいえ
属性（Attributes）	一括ボリュームジョブの JSON 属性。	JSON オブジェクト	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
asyncHandle	完了を確認する非同期プロセスの ID。	整数
キーを押します	セッションを一意に識別する判読不明なキー。	文字列
URL	ノードの Web サーバにアクセスするための URL。	文字列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "StartBulkVolumeRead",
  "params": {
    "volumeID" : 5,
    "format"   : "native",
    "snapshotID" : 2
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "asyncHandle" : 1,
    "key" : "11eed8f086539205beeaadd981aad130",
    "url" : "https://127.0.0.1:44000/"
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

StartBulkVolumeWrite

「artBulkVolumeWrite」メソッドを使用すると、指定したボリュームの一括ボリューム書き込みセッションを開始できます。

1つのボリュームで同時に実行できる一括ボリュームプロセスは2つだけです。セッションを初期化すると、外部バックアップ元から Element ストレージボリュームにデータが書き込まれます。外部データは、Element ストレージノードで実行されている Web サーバからアクセスされます。外部データアクセスに関するサーバ操作の情報は、ストレージシステムで実行中のスクリプトによって渡されます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
の形式で入力し	<p>ボリュームデータの形式。次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • uncompressed ：ボリュームのすべてのバイトが圧縮されずに返されます。 • ネイティブ : 非透過的なデータが返されますこれは 'サイズが小さく ' 後続のボリュームの一括書き込みでより効率的に保存および書き込みが行われます 	文字列	なし	はい。
ボリューム ID	書き込むボリュームの ID 。	整数	なし	はい。
スクリプト	<p>実行可能スクリプトの名前。スクリプト名を指定しない場合は、Element ストレンジノードにアクセスするためにキーと URL が必要です。スクリプトはプライマリノードに対して実行され、キーと URL がスクリプトに返されます。これにより、ローカル Web サーバにアクセスできるようになります。</p>	文字列	なし	いいえ
scriptParameters	スクリプトに渡す JSON パラメータ。	JSON オブジェクト	なし	いいえ
属性 (Attributes)	一括ボリュームジョブの JSON 属性。	JSON オブジェクト	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
asyncHandle	完了を確認する非同期プロセスの ID。	整数
キーを押します	セッションを一意に識別する判読不明なキー。	文字列
URL	ノードの Web サーバにアクセスするための URL。	文字列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "StartBulkVolumeWrite",
  "params": {
    "volumeID" : 5,
    "format"   : "native",
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "asyncHandle" : 1,
    "key" : "11eed8f086539205beeaadd981aad130",
    "url" : "https://127.0.0.1:44000/"
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

UpdateBulkVolumeStatus

「UpdateBulkVolumeStatus」メソッドを使用すると、「StartBulkVolumeRead」メソッドまたは「StartBulkVolumeWrite」メソッドで開始した一括ボリュームジョブのステータスを更新できます。

パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
キーを押します	の初期化中に割り当てられたキー StartBulkVolumeRead または StartBulkVolumeWrite セッション。	文字列	なし	はい。
ステータス	指定した一括ボリュームジョブのステータスが設定されます。有効な値は次のとおり • running : アクティブなジョブ。 • complete : 完了したジョブ。 • failed : 失敗したジョブ。	文字列	なし	はい。
PercentComplete	一括ボリュームジョブの進捗状況のパーセンテージ。	文字列	なし	いいえ
メッセージ	ジョブが完了したときの一括ボリュームジョブのステータスを返します。	文字列	なし	いいえ
属性 (Attributes)	JSON 属性。一括ボリュームジョブの内容を更新します。	JSON オブジェクト	なし	いいえ

戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ステータス	要求されたセッションのステータス。ステータスは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 準備中• アクティブ• 完了しました• 失敗しました	文字列
属性（Attributes）	メソッド呼び出しで指定された属性を返します。値は変更の有無にかかわらず返されます。	文字列
URL	ノードの Web サーバにアクセスするための URL。セッションがアクティブな場合にのみ提供されます。	文字列

要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "UpdateBulkVolumeStatus",
  "params": {
    "key": "0b2f532123225febda2625f55dcb0448",
    "status": "running"
  },
  "id": 1
}
```

応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result": {
    "status" : "running",
    "url" : "https://10.10.23.47:8443/"
  }
}
```

新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

- [StartBulkVolumeRead](#)
- [StartBulkVolumeWrite](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。